

観光社会資本の事例

テーマ	銅(あかがね)親水公園内の足尾砂防堰堤。		
【施設の状況写真】			
			
日本最大の貯砂量500万m ³ を誇る足尾砂防堰堤。下流には、国・県・町の共同事業による銅(あかがね)親水公園があります。		足尾砂防堰堤周辺の渓谷は、足尾銅山の煙害で緑が奪われ、日本のグランドキャニオンと呼ばれています。	
【施設の利用写真】			
			
園内には、銅山の歴史を紹介するとともに環境問題を学べる総合的学習施設があります。		公園内では地元のボランティア団体主催の「足尾グリーンフォーラム」等のイベントにも利用されています。	
【観光資源としての利用状況】			
足尾砂防堰堤の下に作られた銅親水公園では、園内には地域のシンボルとして架設された、県内初の人道用斜張橋「銅(あかがね)橋」や、銅山の歴史を紹介するとともに、自然の大切さと環境問題を学べる施設、「足尾環境学習センター」があり『見て・休んで・学べる』という総合的な学習施設です(旧足尾町HPより)。また、足尾砂防堰堤には、周辺山地に多数生息するカモシカの壁画を設置しております。			

テーマ	銅(あかがね)親水公園内の足尾砂防堰堤。
<p>【社会資本の基礎データ】</p> <p>名称 足尾砂防堰堤</p> <p>所在地 栃木県日光市足尾町字原レ</p> <p>事業名 直轄砂防事業</p> <p>事業主体 国土交通省 関東地方整備局 渡良瀬川河川事務所</p> <p>事業期間 昭和25年～昭和30年(本堰堤・副堰堤・導水堤の第1次工事)</p>	
<p>【社会資本の役割・効果】</p> <p>利水効果</p> <p>足尾砂防堰堤の完成で重荒廃地域である松木地区からの土砂流出が抑制され、河床高(川底の高さ)の急激な変動が治まり、町営水道および工業用水の安定取水が可能となりました。</p> <p>治水効果</p> <p>渡良瀬川流域では、昭和22年のカスリーン台風、翌年のアイオン台風の来襲による大災害により、荒廃した山間部から流れ出す土砂をくい止めるため、足尾町の松木川、久蔵川、仁田元川の3川が合流する地点に足尾砂防堰堤が作られました。高さ39m、長さ204m、計画貯砂量500万m³を誇る我が国最大規模の砂防堰堤で、完成以後、下流の渡良瀬川流域には大災害がなくなりました。</p> <p>足尾砂防堰堤の下に、銅親水公園が作られ、観光スポットとなっています。</p>	
<p>【位置図】</p> 	
<p>【関連ホームページ】日光市：http://www.city.nikko.lg.jp</p> <p>足尾に緑を育てる会：http://www.takatechnical.co.jp/asio/index.htm</p> <p>渡良瀬川河川事務所：http://www.ktr.mlit.go.jp/watarase/</p>	